

活動

- ・あおむしの飼育をする・愛着を持ってお世話する。

準備したもの

- ・虫かご
- ・木の枝
- ・餌（葉っぱ、野菜）

○活動内容

- ・コスモスを食べていた、あおむしを育てる。
- ・虫に興味を持ち成長の過程を見守る。

○保育者の問いかけやアプローチ

- ・『はらぺこあおむし』の絵本と実際のあおむしを見比べながら、幼虫・さなぎ・成虫へと変化していく過程に興味をもてるよう関わった。「これと同じだよ」「今はさなぎになったね」などと保育者が丁寧に言葉を添えることで、目の前で起きている変化と絵本の世界がつながり、子どもたちがイメージしやすいように援助した。
- ・日々の変化に気付けるように、毎日観察する時間を設け、継続して関わる経験を大切にしたい。同じ対象を繰り返し見ることによって、小さな変化にも気付こうとする姿や、「昨日と違うね」といった発見が生まれるようにしたい。
- ・餌やりや虫かごの掃除などを興味のある子どもと一緒にすることで、生き物を育てる体験を通して責任感や愛着が育まれるようにしたい。保育者が寄り添いながら関わることで、子どもたちが安心して継続的に生き物と関わり、興味や関心を深めていけるようにしたい。

○子どもの様子

- ・子どもたちは『はらぺこあおむし』に出てくる生き物であることを理解し、絵本と実際のあおむしを見比べながら関心を深めていた。絵本の世界と現実の生き物がつながることで、「同じだね」と気付く姿が見られ、興味をもって観察する様子が見られた。
- ・保育者が日々お世話をする様子を見て、自然と周りに集まり、餌やりや観察に参加する姿が見られた。生き物への関わりを身近に感じることで、「やってみたい」という気持ちが育ち、主体的に関わろうとする姿につながっていた。
- ・成長の過程では、「さなぎになったね」「蝶々になるの?」「かわいいね」など、見たことや感じたことを言葉にしたり指を差したりしながら興味を表現する姿が見られた。変化を繰り返し見ることによって、生命の不思議さや成長への気付きが深まっていた。
- ・羽化した蝶を戸外に放す際には、最後まで見守りながら「ばいばーい！」と手を振る姿があり、生き物への愛着や思いを大切にしている経験となっていた。また、図鑑を持ってきて同じ生き物を探す姿も見られ、実体験と知識を結び付けながら理解を広げていく様子が見られた。

○振り返り

- ・コスモスの葉があおむしに食べられてしまい、結果として枯れてしまう出来事はあったが、子どもたちの興味があったあおむしを実際に育てる経験へとつながり、生き物に触れる貴重な体験となった。目の前で起こる変化をそのまま受け止めながら関わることで、命の不思議さを感じるきっかけとなっていた。
- ・図鑑を絵本コーナーに置くことで、子どもたちが興味をもって手に取り、「同じものはどれかな」と探そうとする姿が見られた。まだ言葉での理解が難しい1歳児でも、写真やイラストと実際のあおむしを見比べることで、視覚的に結び付けて理解しようとする姿が見られた。
- ・保育者が「これがあおむしだよ」と繰り返し伝えたり、一緒に指を差して確認したりすることで、図鑑の写真や絵本のイラストと目の前のあおむしと同じものであることを少しずつ理解できるようになっていた。実物と絵や写真を結び付ける経験を通して、興味や気付きが広がり、安心して観察を楽しむ姿が見られた。



テーマ：自然 コスモス ②

1歳児クラス 13名 30分

活動

- ・コスモスの種まきをする。・季節の花に興味を持つ。

○活動内容

- ・グループタイムで花の写真を見せながら種まきをすることを簡単に伝える。
- ・種を触る、保育者が種まきをする姿を実際に見てみる。
- ・水やりをする

準備したもの

- ・コスモスの種
- ・プランター
- ・土
- ・写真

○保育者の問いかけやアプローチ

- ・花や生き物の図鑑を室内に用意することで、子どもたちが身近に植物や生き物に触れ、興味や関心をもてるような環境を整えた。手に取りやすい場所に置くことで、保育者や友だちと一緒に見ながら、「これなにかな」と自然に関心が広がる姿が見られるようにした。
- ・クラスの前にプランターを常に設置し、いつでも観察できる環境をつくることで、日々の小さな変化に気付けるようにした。繰り返し見ることで「昨日と違うね」といった気付きにつながり、植物への関心が深まっていくようにした。
- ・成長したコスモスの写真を見える場所に掲示し、実物と写真を結び付けて「同じものだ」と分かるようにした。視覚的な手がかりを増やすことで、1歳児でも理解しやすく、安心して観察できるよう配慮した。
- ・日々の関わりの中では、「おおきくなーれ」と子どもたちと一緒に水やりを行い、植物に親しみをもてるようにした。繰り返し世話をする経験を通して、植物への愛着が育まれ、成長を楽しみにする気持ちにつながっていた。

○子どもの様子

- グループタイムの時からコスモスの種に興味を示し、子どもたちは「これなに？」と見たり触れたりしながら関わっていた。実際に順番に種に触れる時間を設けることで、手触りや小ささなどを感じる経験となり、身近な自然への関心が高まっていた。
- 保育者が種まきをする様子をじっと見つめる姿があり、その過程に興味をもって関わろうとする様子が見られた。「こすもす」と名前を繰り返して言う子もあり、言葉と実物が少しずつ結び付いていく姿がうかがえた。
- 登園後にはプランターを見に行き、芽が出ているかを確認する姿が日常的に見られた。芽が出た際には「みて！」と保育者や友だちに知らせるなど、発見を共有しようとする姿があり、喜びや驚きを一緒に感じる経験となっていた。
- 涼しい時間に少人数ずつ水やりを行い、「おおきくなーれ」と言いながら世話をすることで、植物への愛着が育まれていた。繰り返し関わる中で成長を楽しみにする気持ちが芽生え、身近な自然への興味や思いやりにつながっていた。



○振り返り

- 散歩時や戸外遊びの中で、子どもたちが花の前にしゃがみ込んで見たり、そっと触れたりする姿が見られたことから、その興味をつなげる形で季節の花であるコスモスの種まきを行った。保育室前のテラスにプランターを設置し、窓にはコスモスの写真を掲示することで、「今育てている花がコスモスである」ということを視覚的に分かりやすく伝え、期待感や親しみをもてるようにした。
- 簡単な図鑑を保育室に置くことで、子どもたちが種まき後にコスモスの写真を探したり、見比べたりする姿が見られ、興味をより深めるきっかけとなっていた。実物と写真を行き来する経験を通して、「これがコスモス」という理解が少しずつ積み重なっていた。
- 保育室前のテラスにプランターを常に置くことで、毎日成長の様子を観察できる環境となり、芽が出る・葉が増えるといった変化に気付く姿が見られた。日々の生活の中で自然に触れ続けることで、植物への関心や愛着が育まれていた。